

< 今日の説教のポイント 出エジプト記 20 章 7 節 >

**第三戒 「あなたは、あなたの神、主の名をみだりに唱えてはならない。主はその名をみだりに唱える者を罰せずにはおかない。」(20:7)**

1 「神様、主よ」と祈るのはいけないことを教えているのか？

これを読むと、「神様、主よ」と軽々しく口に出して唱えてはならないと教えている、と思うのではないのでしょうか。しかし、「みだりに」と訳されている言葉は、聖書では人間の驕り高ぶりと関係して「空しく」と多く訳されている言葉です（「人間の与える力は空しいものです」詩編 108 : 13）。また、「唱える」は「持ち上げる、取り上げる」が元の意味です（「私を持ち上げて放り出された」詩編 102 : 11）。つまり、祈りの言葉だけではなく、もっと広く、人間の誤った目的のために神様を利用してはならないことを教えているのです。詩編には「主の御名を讚美します」という言葉もたくさん出て来ます。「主、神」という言葉も、口にしてはならないというのではなく、口に出すことによって回りの人が神様を讚美することにつながっていくなら、神様が罰せられるはずないですね。自分の都合に合わせて神様を用いるだけの信仰になっているなら、神様は「罰せずにはおかない」と言われているのです。

2 神様は怖い方？ 否。恐れさせて悔い改めさせるのとの違い。

だとすると、「罰せずにはおかない」という表現が気になりますので、すでに聞いて来た大事なことをお話しておきます。十戒は第一戒が記された直前の 2 節に常に立ち返って聞くことが大事でしたね。エジプトの奴隷状態から救い出して下さった神様が言われている言葉なのですから、私たちが命を得るための生き方を第一戒から示して下さっているのです。ですから、「罰せずにはおかれぬ」とは、「神様の言うことを聞かないからあなたたちを罰する」というよりは、「放っておくとあなたたちが死に至るから罰する」、つまり、「間違いに気づいて命の方向に方向転換することが起こるために罰する」と言われているのです。今日配布した教会報の巻頭言に載せた「主は、必ずエジプトを撃たれる。しかしまた、いやされる。彼らは主に立ち帰り、主は彼らの願いを聞き、彼らをいやされる」（イザヤ書 19 : 22）も同じです。本当に愛しているからこそ叱る時は叱る、それは本当に愛しているから救うために - それは人間の場合でも同じでしょう。ましてや、それ以上の「熱情」(5)をもって私たちに対して下さるのが聖書の神様なのです。